

(2) 交通のうつりかわり

① むかしの大越町のようす

明治のはじめごろ(120年前)までは、上大越の町ふきは宿場町で、問屋場やはたご屋などがおかれ、旅人や荷物などのせわをしていました。明治7年には郵便局もおかれたのですが、明治21年(100年前)にいわき街道が牧野の方を通るようになると大越の方を通る人や荷物が急に少なくなり、町は急にさびれてしまいました。郵便局もいわき街道ぞいの門沢にうつされました。

(畑の中に半分うずまっしてしまっている。
(左面にほりごし・右面にときわ・正面にひろせ)と書いてある。)



道しるべ石(上大越古町地内)

② 大越駅ができる

大正4年、磐越東線が開通し、大越駅ができる、汽車を利用する人たちが集まるようになり大越は駅前を中心に、にぎやかになってきました。駅前には、旅館や商店ができ、電どうも町では一番早くともりました。汽車はいちどに多くの荷物をのせて出せるので、石粉工場や石灰石をつみ出す工場ができ、運送会社もできました。

朝夕は、郡山市や三春町へ通うつとめの人や学生が乗り降りし、ひるは汽車に荷物をつみおろす人たちがいつもにぎわっていました。(今の大越駅)



大越駅利用のようす

(大越駅調べ)

区 分		年						
		59	60	61	62	63	平成元	2
る 利 用 人 す	年 間	205,130 ^人	196,036 ^人	19,545 ^人	178,975 ^人	172,191 ^人	171,266 ^人	165,612 ^人
	1日あたり	562 ^人	538 ^人	519 ^人	488 ^人	478 ^人	467 ^人	474 ^人
荷 出 物 す	年 間	320,828 ^t	不 明	不 明	428,900 ^t	412,940 ^t	334,458 ^t	397,798 ^t
	1日あたり	879 ^t	不 明	不 明	1,175 ^t	1,131 ^t	916 ^t	1,089 ^t